

- ・産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業について
- ・施設紹介（膳所診療所・大阪大学歯学部附属病院）

産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業について

腰痛、頸肩腕部痛、頭痛など、働く人たちが抱える慢性痛は多岐にわたっており、時に就業を困難にし、休職や失業につながることもある。うつ病や適応障害が合併するケースでは、治療に難渋し、職場復帰に支障をきたすことも少なくない。働く人たちの慢性痛の予防及び治療においては、事業所の産業保健スタッフの役割が重要であること、及び「仕事と治療の両立支援」において慢性痛に対する有効な治療を普及させる必要があることから、本事業では以下の取り組みを行っている。

1) 産業医向け慢性痛セミナー

令和元（2019）年度から「産業医慢性痛セミナー」を実施し、産業医が理解すべき作業関連運動器障害の予防に関する話題、及び慢性痛の治療と復職支援に関する話題を合わせて提供している。同セミナーは、大阪府保険医協会産業医対策委員会、滋賀県産業医会との共催で、日本医師会認定産業医制度の生涯研修会・専門の単位認定をしている。また、2020年度以降は滋賀会場と大阪会場をつないでオンラインと対面のハイブリッド形式で開催。2会場合わせて対面参加が140～170名、オンライン参加者を含めると毎年約200名が参加し、好評を得ている。

2) 診療連携

滋賀医科大学附属病院（学際的痛みセンター）では、かねてより膳所診療所・職業病外来と連携して診療をおこなってきたが、平成29（2017）年度から、本モデル事業にて腰痛や頸肩腕障害など作業関連性の慢性運動器疼痛に対する集学的治療を開始。年単位で休業していた人が職場復帰を果たすケースもあり、総じて高い効果を確認した。この滋賀県での連携を一つのモデルとして、就労継続に支障をきたす慢性痛に対する病診連携の普及を図ってきた。これまでに、千里山病院集学的痛みセンターとのざと診療所・産業医学科との連携、膳所診療所から近畿地区診療ネットワーク医療機関への紹介など行われている。症例数及び連携医療機関の拡大が課題となっている。

北原 照代

（滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門、膳所診療所）

膳所（ぜぜ）診療所・職業病外来



同診療所の職業病外来は、今から約30年前に、滋賀医科大学予防医学講座（現・社会医学講座・衛生学部門）が協力して開始され、1999年から筆者が週1回担当している。通院患者の職種は、手話通訳者、重症心身障がい者施設職員、保育士、介護士、看護師、特別支援学校教員、建築労働者、公務員など様々である。同診療所は大津市中心部に位置するが、滋賀県東部・北部、JR沿線の大阪・京都、更に遠く愛知・岐阜・京都府北部から通院しているケースもある。対象疾患は、腰痛や頸肩腕障害などの作業関連性運動器障害がほとんどだが、うつ状態や適応障害などを併発する事例も少なくない。対象患者数は計約70～80名で、その約25%が労災診療事例、約25%が労災診療終了後のフォロー事例と、約半数が現在もしくは過去に労働災害として認定された事例である。

担当を始めた当初は、非ステロイド性抗炎症薬の処方を中心で、体操励行や保温など日常生活のアドバイス、時間を割いて傾聴、といった診療スタイルだった。滋賀医大附属病院・学際的痛み治療センターの開設、理学療法士による運動器リハビリが可能な整形外科開業医及び労働衛生に理解のあるメンタルクリニックの増加、新しい疼痛治療薬（トラマール、リリカなど）、信頼できる鍼灸院や整体院の確保、新経絡療法

（“ツボ”刺激による疼痛緩和）や漢方薬処方などにより、2010年頃から、治療の選択肢が広がった。特に、学際的痛みセンターへの紹介により、病診連携・他職種連携が一段と進んだ。また、筆者が産業医を務める老健施設、および埴田前准教授が産業医を務める重症心身障がい者施設で発生した腰痛や頸肩腕障害事例についても、主治医と産業医双方の立場で、また埴田産業医と連携して、患者の治療と職場復帰支援をしているのも同外来の特徴である。微力ながら、今後も多職種・医療機関と連携して、慢性痛に悩む働く人々を支援していきたい。

辻村（北原）照代

（膳所診療所・職業病外来、
滋賀医科大学・社会医学講座・衛生学部門）

大阪大学歯学部附属病院

大阪大学歯学部附属病院は、1953年に医学部附属病院から独立し、西日本で最初の国立大学歯学部附属病院として発足しました。1983年に中之島キャンパスから吹田キャンパスに移転し、現在では国立大学法人の総合大学では唯一の独立した歯学部附属病院です（図1）。

院内には18の診療科・部・センターが配置されており（図2）、その中にさらに多くの専門外来が設置されています。

歯科領域においても、慢性の筋・筋膜性疼痛、神経障害性疼痛、口腔灼熱痛症候群、非定型歯痛など、口腔顔面の慢性疼痛への対応が必要な症例は少なくありません。大阪大学歯学部附属病院では、このような症例の紹介を受け、複数の診療科のドクターが連携を取り合って診療にあたっています。厚生労働省慢性疼痛モデル事業との関わりは、柴田政彦先生にお声がけいただき、2018年度の診療体制構築プロジェクトに歯科部門として参加させていただいたことから始まりました。以降、2019年度の痛みセンター設立プロジェクト、2020年度からの慢性疼痛診療システム普及・人材養成プロジェクトと継続して関わらせていただき、現在に至っています。

口腔顔面痛の診察、診断にあたり、歯科疾患だけでなく、口腔顔面領域に疼痛が発現するさまざまな疾患に対する知識が必要です。開業歯科医師を含め、歯科医療にたずさわる医療スタッフがこれらを学ぶ場は限られていました。

そこで、一つ目の試みとして、富永病院頭痛センターの竹島多賀夫先生、菊井祥二先生らのお力を拝借し、

「歯科医のための Headache Academy 三叉神経・自律神経性頭痛（TACS）の診かた」を2020年度から毎年12月に開催しております。二つ目の試みとして、「歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と集学的診療の必要性」を2019年度から毎年2月に開催しております。

こちらは、関西医大心療内科の水野泰行先生、神戸学院大学大学院総合リハビリテーション学研究所の松原貴子先生にご尽力いただき、口腔顔面領域の慢性疼痛患者に対する心療内科的アプローチおよび運動療法的アプローチを中心に、歯科医師を対象に集学的立場からの診療介入についても知識を提供すると共に、医師や歯科以外の医療関係者に対しても歯科における痛み治療の詳細を知っていただくことを目標としています。

今後も、このような活動を通じて、人材育成や、歯科を含む慢性疼痛診療システムを普及させたいと思います。口腔顔面領域の慢性疼痛症例において、歯科的診察が必要と思われる場合は、ぜひご紹介いただければと思います。

石垣 尚一

（大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 クラウンブリッジ補綴学分野 准教授
歯学部附属病院 口腔補綴科 副科長）



図1. 大阪大学歯学部附属病院・大学院歯学研究科は大阪大学吹田キャンパスの南側に位置し、写真には万博公園太陽の塔、奥には生駒山を臨む。



図2. 大阪大学歯学部附属病院の診療科案内

事務局

〒520-2192

滋賀県大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学麻酔学講座内

ホームページ

<http://painkinki.html.xdomain.jp/>

